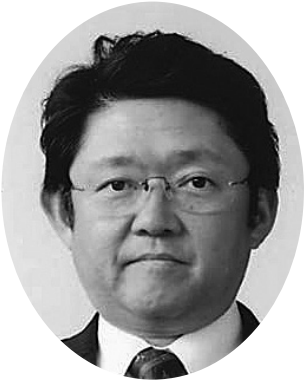
視点

絶対リターンとESG投資



株式会社大和ファンド・コンサルティング
代表取締役社長
阿久沢　哲　夫 CMA

最近、柄にもなく思索にふける機会が増えている。理由は単純で、会社の総合健康開発センターに毎日一万歩歩くように勧められ、これを恒常的に達成するにはどうしてもお昼に4,000歩ほど稼がなくてはならない。故に昼食は外食となり、その往復の徒歩約20分間が思索の時というわけである。お題目はその日の気分によって変わるが、最近頻繁に頭に浮かぶことは絶対リターンとESG投資である。

絶対リターンの出発点は、マイナス金利の環境下で相対パフォーマンスを上げることだけに終始していいのか、というところだ。つまり限りなくリターンの低いものへの投資を相対パフォーマンスで優位にあれば是とすることへの疑問である。これまで企業年金や金融機関等いわゆる機関投資家向けの運用の多くは、ベンチマークに対しての相対比較で優劣が語られてきた。しかしながら、超低金利環境下の現在、絶対リターンについて再考してみてもいいタイミングなのではないだろうか。

先に述べた機関投資家の世界において相対リターンが重要であることは疑う余地がない。またなかんずく伝統的資産における個別ファンドの評価においては、ベンチマークに対する将来の超過リターン獲得の蓋然性がポイントとなる。

©日本証券アナリスト協会　2018